

Future City Project

横浜 相鉄いずみ野線



このまちが
本当に大好き!
住んでいて
よかった。

都心から
移り住む若い人が
増えてくる。

ここでは、新しい
ライフスタイルが
実現できる。

私の夢は、
魅力あるまちを、
次の世代に
受け継いでいく
こと。

FCP
Future City Project
相鉄いずみ野線沿線

相鉄いずみ野線沿線 環境未来都市

みらいに向けたまちづくりイメージブック2015



ゆめが丘駅

いずみ
中央駅

いずみ野
駅

弥生台駅

緑園都市駅

南万騎が原
駅

二俣川駅

相鉄いずみ野線

相鉄いずみ野線沿線 環境未来都市 みらいに向けたまちづくりイメージブック2015
http://www.izuminoline-fcp.jp/

発行
横浜市／相鉄ホールディングス株式会社
2015年11月発行・2016年3月改訂

お問合せ先 横浜市建築局住宅再生課
TEL : 045-671-4083 FAX : 045-641-2756
お問合せ時間 : 8:45~17:15(土・日・祝日を除く)



はじめに 相鉄いずみ野沿線 環境未来都市の取組とは

郊外住宅地に活力を生み出し、自分らしい豊かなライフスタイルが実現できるまちを目指しています。

相鉄いずみ野線沿線の開発は、1976年の二俣川駅～いずみ野駅間の開通を皮切りにはじまりました。高度経済成長期に横浜市への急速な人口流入が進むなか、良好な住環境を整備するため、沿線各所で区画整理事業が施行されました。それから約40年が経過し、現在、沿線には「活発な市民活動」や「豊かな自然と農地」など、豊富な地域資源が存在しています。

沿線各駅周辺では再開発や区画整理、駅前再整備などが計画されており、神奈川東部方面線も開業し、新横浜都心や東京都心へのアクセスが改善されることで、来街者の増加や人口流入など新たな効果が期待されています。一方で、住民の高齢化や若年層の流出、インフラの老朽化や耕作放棄地の増加など、横浜市の郊外が共通に抱える課題もあります。

横浜市と相鉄ホールディングス株式会社は、このような地域課題を解決し、地域の魅力をより高めていくため、2013年4月に、地域の皆様や企業、大学、行政との協働による新たなまちづくりを進めるための「相鉄いずみ野線沿線の次代のまちづくりの推進に関する協定」を締結し、「相鉄いずみ野線沿線 環境未来都市」の取組を行っています。

この取組では、地域の資源や魅力を最大限に活用し、さらに生み出すことによって、よりいっそう愛される「いずみ野線沿線の未来」を創造していきたいと考えています。

みらいの相鉄いずみ野線沿線のことを学び、豊かなライフスタイルを重ね合わせながら、ぜひ、皆様の思い描く夢を膨らませてみてください。



二俣川(駅前再開発のイメージ)

南万騎が原(柏町市民の森)

緑園都市(四季の径)

弥生台(相鉄沿線名店プロジェクト)

いずみ野(駅周辺の住宅団地)

いずみ中央(地蔵原の水辺)

ゆめが丘(駅舎)

まちづくりイメージブックとは

地域の皆様や企業、大学、行政など、様々な主体が協働・連携を進めていくために共有し、状況の変化に応じて柔軟に取組を進めるためのガイドです。

これまでの取組を通して見えてきたまちづくりの視点(コンセプト)と6つのまちのイメージを、取組の基本的な考え方としてまとめました。

まちづくりの取組は、期限を決めて行われるものではなく、持続的に取り組んでいく必要があります。長いスパンでまちづくりを考えた時に、新しい人が参画したり、組織によっては人が替わることもあります。また、取組を行う中で、常に状況は変化し続けます。

この「まちづくりイメージブック」は、地域の皆様や企業、大学、NPO、行政など、様々な主体がまちづくりと一緒に考え、スムーズに協働・連携していくためのたたき台として作成しました。

この「まちづくりイメージブック」をきっかけとして、まちの魅力を共有し、まちづくりの取組を広げ、地域の皆様の参画により、まちの魅力を高めていくことを目指しています。

今後の取組の展開イメージ

取組を沿線の他の地域にも展開させていき、沿線全体でまちの魅力を高めていきます。

これまで、南万騎が原、緑園都市、いずみ野の3つの駅の周辺で先行して取組を進めてきました。今後は、これまでの取組成果を地域の皆様と共有した上で、企業・NPO・大学などの様々な主体とも連携しながら、取組を沿線の他の地域にも展開させていき、沿線全体でのまちの魅力を高めていきます。



まちづくりの取組姿勢

沿線にある魅力的な地域資源を活用しながら、
産学官民の連携・協働により取組を進めていきます。

● 地域×企業×大学×行政の連携によるまちづくり

沿線にお住まいの皆様や、企業、大学、行政がパートナーとして連携・協働しながら、主体的にまちづくりを進めていきます。

● 沿線の地域資源を活かした価値創造

沿線に存在する「市民の方々が持つ豊富な知識や経験」、「豊かな自然環境」などの多様な地域資源や、「横浜や、今後改善される東京方面への良好なアクセス」を最大限に活用しながら、まちの価値創造を行っていきます。

● 横浜市環境未来都市計画による、持続可能なまちづくり

横浜市環境未来都市計画の主要な取組である「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」のひとつとして「相鉄いずみ野線沿線地域」を位置づけ、地域課題の解決に取り組み、持続可能なまちづくりを行っています。



これまで地域・企業・大学・行政が連携・協働して行ったまちづくりの取組の様子
写真：【左上】いずみ野マルシェ(第4回)(いずみ野駅周辺エリア)、【左下】南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクト「みなまきの広場をみんなでつくろう！」ワークショップ(南万騎が原駅周辺エリア)、【右上】えきばた会議(緑園都市駅周辺エリア)、【右下】街カフェ(第2回)(緑園都市駅周辺エリア)

まちづくりの視点(コンセプト)

まちづくりを進めていく上での視点(コンセプト)をまとめました。

相鉄いずみ野線沿線をどのようなまちにしていけるか、まちの未来像を考える上で、沿線地域にお住まいの皆様に加えて、これからの住まいになる方々とも共有するために、「まちづくりの視点(コンセプト)」をまとめました。

まちづくりの視点

■ 地域経済の循環により豊かな価値を創るまち

豊富な地域資源を活用し、農・工・商が重なりあう6次産業化や、コミュニティ・ビジネスなどにより、豊かな価値を創り出しながら、地域経済が循環していく自立型のまちへと変えていきます。



■ 多様なサービスが連携するヨコツナギのまち

地域の中で、福祉や医療、介護だけでなく、スポーツや自然資源などを積極的に連携させていき、多世代が豊かに暮らすことのできるまちをつくっていきます。



■ 複合型ライフスタイルによる支えあいのまち

シェアや近居のような、支えあいを生む新しい住まい方や、地域資源を活かした郊外の新しい働き方、積極的に地域に貢献するような暮らし方など、人と人との支え合いを促す複合型のライフスタイルを展開していきます。



■ 生活創造都市づくりによるチャレンジのまち

地域の中でクリエイティブな活動をすることができたり、今までのまちにはなかった生活にチャレンジできるなど、様々な主体の協働によってまちの魅力を生み出していきます。



■ 地域内移動の活性化による楽しいまち

地域内モビリティや自然が感じられる遊歩道など、地域内での小さな移動などが楽しく気軽にできるようにしていくことで、地域の様々な場所で人や活動をつなげていきます。



■ 持続可能な仕組みによる安心・安全なまち

コミュニティの活性化や防災機能の強化、地域内でのエネルギーマネジメントなど、安心して日常生活を送ることのできる持続可能な地域マネジメントの仕組みを生み出していきます。



いずみ野線沿線のみらいのまちのイメージ

自分らしい豊かなライフスタイルを実現できるような、
みらいのまちのイメージをまとめました。

みらいに向けた 6つのまちのイメージ

1 多世代

多世代が交流できる新しいまちへ

若年層の流入を促す多世代近居や、住み替えやシェアハウスの推進による世代間の交流や支え合い、老朽化した施設やインフラの再生などにより多世代が交流できるまちを目指します。



南万騎が原駅前周辺リノベーションプロジェクト

2 働く

多様な人材にとって働きやすいまちへ

職住近接を実現し、多様な人材が働きやすい環境を目指すとともに、若者から高齢者まで様々な世代が気軽に参加できる新しい地域経済モデルを実践するまちを目指します。



いずみ野マルシェ(第5回)

3 交流

交流を通して、地域貢献につながる取組が生まれるまちへ

スポーツや文化活動、農の取組などを充実させ、人が自然と集まり憩う場をつくることで、地域貢献につながる取組が自然に生まれるまちを目指します。



街カフェ(第3回)

いずみ野線沿線地域にお住まいの皆様にはより暮らしやすく、また、これからお住まいになる方々にはこのまちで暮らしてみたいと思える6つのまちのイメージをまとめました。

皆様と連携・協働しながらまちづくりを進めていくことで、これからの時代にふさわしい新しいライフスタイルを生み出していきたいと考えています。

4 学び・子育て

地域の学びと子育てができるまちへ

地域の人材や資源を活用した学びあえる場を創出するとともに、地域と連携して共働きでも安心安全に子育てができるまちを目指します。



I love Ryokuen マップ

5 健康

誰もが日常の生活の中から健康づくりができるまちへ

多様な主体がまちぐるみで取り組み、健康づくりの活動を実現していくことで、誰もが日常の生活の中から健康づくりができるまちを目指します。



貯筋運動

6 仕組み

暮らしを支える持続可能な仕組みがあるまちへ

地域経営の担い手となりまちづくりの主体となる組織の充実や、地域の医療・介護資源と連携した取組、環境と防災への意識を高める地域マネジメントなど、暮らしを支える様々な持続可能な仕組みがあるまちを目指します。

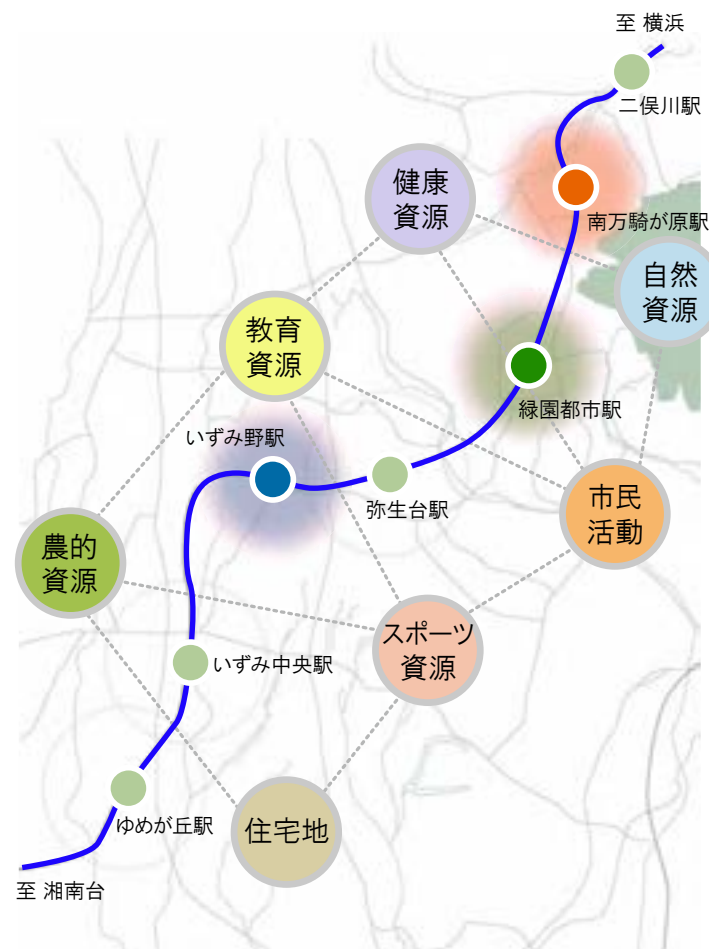


えきばた会議

まちづくりの視点とまちのイメージを踏まえた、相鉄いずみ野線沿線の取組

それぞれの地域の魅力をつなげていきます。

相鉄いずみ野線沿線のまちづくりでは、教育やスポーツ、自然、健康、住宅地、農、市民活動など様々な地域資源をつなげていき、みらいに向けたまちの暮らしを実現・発信していきます。



3つのエリアで先行的な取組がはじまっています。

相鉄いずみ野線沿線の駅周辺では、地域資源を活用し、これまで様々な取組を行ってきました。

次項からは、3つのエリア(南万騎が原駅周辺エリア、緑園都市駅周辺エリア、いずみ野駅周辺エリア)で先行している取組について紹介します。

今後、他の駅周辺エリアについても、みらいに向けて沿線の魅力をさらに高める取組を進めていきます。



南万騎が原駅周辺エリアでの取組



南万騎が原駅前広場
「みなまきの広場をみんなでつくろう！」ワークショップで集めた地域の魅力をサインプレートとして広場に設置

住み替え循環と人の交流促進

これまで、国土交通省の「住宅団地型既存住宅流通促進モデル事業(※1)」において、住み替えやまちに必要とされる機能に関する意向調査を行ってきました。今後はこの成果をもとに、駅前の再整備に合わせ、地域に必要とされる機能の導入、多様な世代が住むことのできる住宅の供給を行い、郊外住宅地の中で住み替えの循環を促進していきます。

この取組は、郊外住宅地の課題を解決するモデルとして、社会的意義の大きさを評価され、国土交通省の「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業」(※2)として採択されました。

あわせて、自然資源が豊かな環境を活かしつつ、住宅地の中に新しい機能を付加し、それらを繋いでいくことで、住宅地の賑わいを創出し、人の交流を生み出していきます。

※1 高齢化等により空き家が現に発生し、また、発生が見込まれる郊外型住宅団地を対象として、既存住宅の流通・活用等を通じた空家の解消、地域の活力維持・再生を促進するモデル的な取組を支援する国土交通省のモデル事業です。

※2 多様な世代が交流し、安心して健康に暮らすことができる住宅を実現するため、先導的な住みづくりの取組みを支援する国土交通省のモデル事業です。

地域の特徴

■良質な住宅地

戸建て住宅は、ゆったりとした大きい区画形成となっています。広い庭やゆとりのある間取りなど、特徴をもった良質な住宅地が形成されています。



■豊かな自然資源

こども自然公園や駅の近くの柏町市民の森など、豊かな自然資源があります。



柏町市民の森:南万騎が原駅西側に広がる1.9haの雑木林を整備。2015年9月に開園しました。南側の散策エリアと北側の自然保護エリアからなります。

南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクト

●駅前広場を地域の皆様とともにつくる

交流 学び・子育て

駅前広場整備に合わせて行われた「みなまきの広場をみんなでつくろう！」ワークショップでは、地域の小学生や大人の方々にご参加いただき、南万騎が原駅周辺エリアのまちを探検し、地域の魅力を「みんなのみなまき物語」としてまとめました。その物語をもとに駅前広場に設置するサインプレートを作成するなど、地域への愛着を醸成する取組を展開しています。また、これら一連の取組はパンフレットとしてまとめられ、まちへの関心を高めるツールとしても活用されています。



「みなまきの広場をみんなでつくろう！」ワークショップ

●多世代の多様な住まいかたの検討

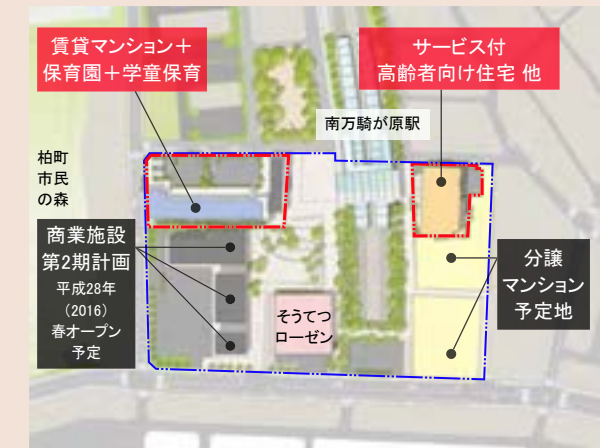
多世代 交流

シェアハウス、老若同居など、多世代の多様な住まい方を検討・提案していきます。

●子育て・高齢者支援など、地域に必要とされる機能を駅前に導入

交流 学び・子育て 健康

スーパーやドラッグストアなどの生活利便施設、クリニック、病児保育などの子育て支援施設、高齢者支援施設の誘致など、地域が抱える課題を解決するための機能を駅前に導入していきます。

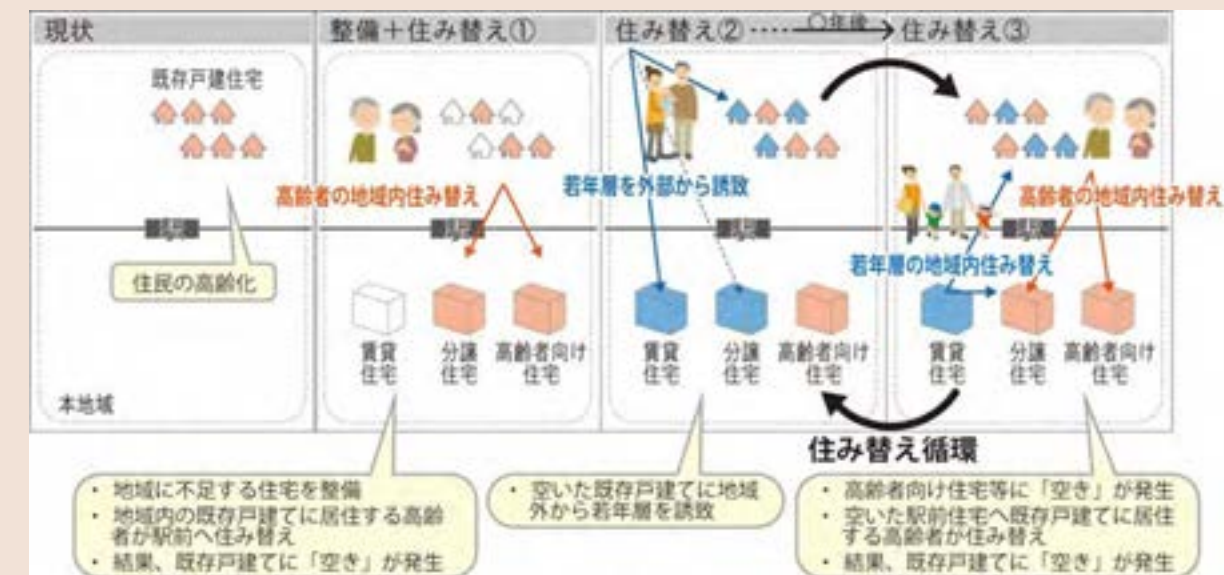


駅周辺施設の機能配置

●住み替えモデルの推進を通じた、多世代が交流できるまちづくり

多世代 交流

南万騎が原駅周辺での「住宅団地型既存住宅流通促進モデル事業」の成果をもとに、駅前に多様な居住形態の住宅を整備し、エリア内の戸建て住宅に住む高齢者や地域外の若年層を誘致します。若年層が、高齢者が移住し空き家となった戸建て住宅にも住み替えができることで、多様な世代が住み、交流し続けることのできるまちづくりを進めます。



住み替え循環イメージ図

凡例(P.5-6のまちのイメージに対応) 多世代 働く 交流 学び・子育て 健康 仕組み

緑園都市駅周辺エリアでの取組



えきばた会議「12のアイデア集」実現第1弾 街カフェ（第2回、平成27年4月18日）
”おしゃべりに、楽しく、地域の方が語り合える場”をコンセプトに地域住民が中心となって実施

地域主体の持続可能なまちづくり

この地域では、これまでも様々な団体によるまちづくりの取組が活発に行われてきました。

平成26年3～5月には、それらの取組が相互につながり、さらに地域の魅力を高めることをテーマとして、3回にわたる市民ワークショップ「えきばた会議」を開催しました。そこから生まれた12のアイデアの内容を具体化していくことで、地域・企業・大学・行政が、地域の課題に対して協働で取り組むきっかけづくりを行い、地域主体の活動を持続可能なものにし、コミュニティの活性化を目指していきます。



緑園都市のまちなみ

地域の特徴

■豊富な教育文化拠点

文学部、国際交流学部、音楽学部などで構成されるフェリス女学院大学があります。また、この地域では、横浜市による小中一貫校も計画されています。



フェリス女学院大学 緑園キャンパス

■活発な市民活動

緑園都市エリアには、自治会をはじめ、様々な市民による自発的な取組が行われています。

●緑園連合自治会

緑園1～7丁目を対象とし、泉区に12ある連合自治会・町内会のうちの1つ。小中一貫校、要援護者支援、緑園周回バスなど、子育て支援や高齢者支援を地域の課題として捉え、地区活性化委員会などと連携しながら様々な取組を行っています。

●地区活性化委員会

自治会代表や地域で活動する各種団体で構成され、課題解決に取り組む実践的な組織。教育、高齢者、緑化、安心・安全などのテーマに取り組んでいます。

●緑園都市コミュニティ協会（RCA）

地権者、住宅購入者、開発者らが一体となり、自治会組織とは別に、日本ではじめてつくられた住民主体のまちづくり組織です。

●緑園地区社会福祉協議会

地域住民が安心してより豊かに暮らせるように、連合自治会、民生委員、保健活動推進員、スポーツ推進委員、ケアプラザを始めとして、子育てグループ、高齢者支援グループと連携して地域の福祉活動に取り組んでいます。

えきばた会議から生まれた「12のアイデア集」

多世代 働く 交流 学び・子育て 健康 仕組み

緑園都市エリアに暮らしている人、勤めている人、学んでいる人、地域活動を行っている人などから参加者を募集し、「緑園の魅力をもっと高める！」をテーマに、平成26年3～5月に、全3回のワークショップ「えきばた会議」を行いました。参加者によって語られたアイデアは、「12のアイデア集」としてまとめられました。その中から、具体的なプロジェクトが実際に始まっています。



12のプロジェクトアイデア

えきばた会議「12のアイデア集」実現第1弾

●街カフェ 働く 交流 仕組み

地域の女性たちが中心となって、企画・運営するオープンカフェ「街カフェ」を定期的に駅前の広場で実施しています。回を重ねるごとに、いろいろな主体を仲間に巻き込みながら行っており、まちの中での交流が広がっています。



地域の方がデザインした街カフェ（第3回）チラシ
(ichikawa chiori design)

街カフェ（第3回）

凡例 (P. 5-6のまちのイメージに対応) 多世代 働く 交流 学び・子育て 健康 仕組み

えきばた会議「12のアイデア集」実現第2弾

●I love Ryokuen マップ 交流 学び・子育て

地域の様々な主体（地区活性化委員会、緑園東小学校・緑園西小学校、横浜緑園総合高等学校、フェリス女学院大学など）が参加し、それぞれの視点で緑園都市の魅力を出し合い、マップにするプロジェクトが進行中です。



I love Ryokuenマップ打合せ

大学等との連携 交流 学び・子育て

フェリス女学院大学などの主体と連携し、取組を生み出していきます。例として、フェリスエコキャンパス研究会とヴィ・ド・フランスとのコラボレーションによる、コラボパンの製造・販売などが挙げられます。



コラボパン打合せ

貯筋運動 交流 健康

高齢者の健康維持、寝たきり予防を目的とした筋力を高める運動教室をマンションの集会室で実施しています。これにより地域の方々の健康増進と、アクティブな生活を促進していきます。



貯筋運動

いずみ野駅周辺エリアでの取組



いずみ野マルシェ（第5回、平成27年10月3日）
「相鉄ライフいずみ野」前の広場を会場に泉区産野菜の販売や試食品の提供などを実施

地域資源を活用した 住宅地の魅力づくり

駅前再整備に合わせ、地域ケアプラザや子育て支援機能など、地域に必要とされる機能の導入を行うとともに、農地などの地域資源を活かした取組を行う場を用意することで、地域の魅力を発信する仕組みづくりを行います。併せて、いずみ野小学校のスーパー給食などの様々な地域資源を活用した取組との連携を進めています。これらの取組により、地域の魅力を高め、若年層を呼び戻し、地域の魅力づくりを図ります。



スーパー給食の連動企画として行った地産地消料理教室

地域の特徴

■身近にある多彩な農資源

駅に近接して広がる農地で様々な作物（米・野菜・果樹など）が栽培されているとともに、畜産や酪農も行われています。また、農家による直売所なども多くあります。



■いずみ野小学校「スーパー給食」

駅北側に位置する「いずみ野小学校」では、学区内に農家が多いという地域の特性を活かし、創立当初より40年近くも実施されている稲作（高学年）、サツマイモ作り（低学年）、野菜作り朝練（4年生以上の希望者）といった活動に取り組んでいます。さらに4年前からは、給食を通じて食に関する知識を高め、食の重要性を知ることなどを目的に「スーパー給食」を実施しています。横浜の地産地消を進める「濱の料理人」に地元の食材による献立を考えてもらい、給食調理員が調理員室でレシピに従った給食を作り、小学生が地域の農家の方や料理人の方々と一緒に給食を食べます。



第3回スーパー給食（平成26年11月27日）

いずみ野駅前リノベーション プロジェクト 多世代 交流 学び・子育て

駅前の商業施設「相鉄ライフいずみ野」は、多様な世代の交流をコンセプトとし、地域の豊かな資源を活かした、新たなライフスタイルを提言していく、地域密着型施設として計画しています。今後、地域ケアプラザや子ども一時預かり機能など、地域に必要な機能の導入を図り、地域の交流を促進する駅前の拠点を作っていきます。



相鉄ライフいずみ野

地産地消料理教室 交流 学び・子育て 健康

東京ガスライフバルのショールームを会場とし、泉区の農家によって栽培された野菜などを用いた、地産地消でエコな料理教室を実施しています。地域の取組であるいずみ野小学校のスーパー給食のメニューを提供する企画も実施しました。



地産地消料理教室

いずみ野マルシェ

働く 交流 健康

泉区産野菜の販売や、それを使った料理の試食を行うマルシェを定期的の実施することで、地域の魅力の発信やコミュニティの場作りに貢献しています。

また、フェリスエコキャンパス研究会とヴィ・ド・フランスとのコラボレーションによるパンの販売などを併せて行うなど、沿線他地域の活動主体と積極的にコラボレーションする取組を進めています。



【上】いずみ野マルシェ、【中】参加したフェリス学院大学の学生、【下】泉区産野菜を使用した試食品の提供

凡例（P. 5-6のまちのイメージに対応） 多世代 働く 交流 学び・子育て 健康 仕組み